

— 総括表 —

◆ 事業計画

地域の現状と今後の方向性

担当地域は商店街などのにぎわいのある地区や住宅地、大規模マンション等が共存し、歴史的・文化的にも由緒ある場所です。3つの連合町内会・地区社会福祉協議会があり町内会や地区社会福祉協議会の活動も活発ですが、活動の中心的役割を担う後継者育成がひとつの課題となっています。また、閉じこもりの方、認知症の方、支援を必要とする方の早期発見も課題です。それらを解決していくには、担当エリアの各地域の連携機関や関連団体との信頼関係が基本であり、地域に出向きネットワークを大切にしていきます。そして、区域計画・地区別計画の推進に向け、地域支援チームの一員として活動を続け、地域ニーズを的確に把握し、地域で生まれるインフォーマルサービスや介護予防への取組等を支援・周知していきます。これからも、住み慣れた地域で暮らし続けられるよう、地域の特性にあわせた地域福祉活動を行います。

今年度の重点的な取組

新規	継続	— 具体的な取組内容 —
<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	地域課題を話し合う場としての『つながりの輪 この指と～まれ』にて、地域の意見としてあがった見守りホルダーの取り組みを所内5職種と地域と協働で試験的に進めていきます。
<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	ケアマネジャーを始めとする専門職や地域支援者の方々に活用して頂けるような、視覚的にも分かりやすいインフォーマルサービス情報の冊子を作成するために、サロン等に参加し関係づくりをしながら情報収集をしていきます。
<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	地域アセスメントにおいて、単位町内会レベルで数的・質的情報収集を引き続き段階的に進めてきます。
<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	『体験！男性アレコレ講座』に参加された方の中からできたプロジェクトチームをより発展させ自主的に活動できるグループ発足にむけて支援していきます。
<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	地域のキャラバンメイト同士の交流や情報交換ができるような機会を設けます。
<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	地域住民への出前講座や認知症サポーター養成講座を多世代に向けて開催していきます。

◆ 事業報告・事業実績評価

振り返り

新型コロナ感染予防のため、各事業が一時休止や縮小を余儀なくされました。そのため社会資源の提供や認知症への理解のための啓発活動を十分に行うことができませんでした。ケアマネジャー、民生委員、サロン支援者向けに感染認定看護師による感染対策講演会を実施することにより、予防対策を工夫し、少しずつ各種活動を再開することができています。

地域の課題を話し合う場「つながりの輪」で提案された〈見守りホルダー〉については取り組みが町単位で少しずつ広がっています。〈男性アレコレ講座〉も参加者が意欲的にテーマを企画していますので、活動を支援します。

地域の皆様の困りごとや要望を受けとめ、協力して事業を展開できるようにします。

区からのコメント

コロナ禍で思うような事業展開ができない中でも、関係機関やサロン等参加者の方の気持ちをつなぐような、日常の情報交換や配慮、支援を行っていただいています。

認知症の啓発活動は、企業や施設の多い地域でもあるため、多方面からの要請が今後も考えられますので区と連携しながら、普及へのご尽力をお願いします。

「つながりの輪」の提案から発足したぼたんちゃんホルダーについては、説明の場の設定や登録について地域と意見交換をしながら丁寧に進めていただきました。また、男性アレコレ講座は、「受講」だけでは終わらない貴重なつながりの場にもなっています。引き続き、地域の声に寄り添った事業展開をお願いします。